

第6回わたらせ渓谷鐵道沿線地域交通・デザイン推進協議会

議事概要

日時：2025 年（令和 7 年）7 月 2 日（火）14：10～15：30

場所：桐生地域地場産業振興センター 第 1 ホール

群馬県桐生市織姫町 2 番 5 号 ※Zoom 併用のハイブリッド開催

1 開 会

2 会長あいさつ

3 委員の紹介

4 議 題

- （1）令和 6 年度協議会における取組状況の振り返り
- （2）令和 6 年度協議会会計監査報告
- （3）令和 7 年度協議会事業計画（案）の変更について
- （4）令和 7 年度協議会予算（案）の変更について
- （5）今後のスケジュール について

5 その他

6 閉 会

【配布資料】

資料 0 議事次第

資料 1－1 第 6 回わたらせ渓谷鐵道沿線地域交通・デザイン推進協議会 出席者名簿

資料 1－2 第 6 回わたらせ渓谷鐵道沿線地域交通・デザイン推進協議会 配席図

資料 2－1 令和 5 年度・令和 6 年度調査の振り返り

資料 2－2 わたらせ渓谷鐵道の今後のあり方に関する基本方針

資料 3 令和 6 年度わたらせ渓谷鐵道沿線地域・デザイン推進協議会会計監査報告

資料 4－1 令和 7 年度予算・事業計画変更案の概要

資料 4－2 令和 7 年度わたらせ渓谷鐵道沿線地域・デザイン推進協議会事業計画（案）

資料 4－3 令和 7 年度わたらせ渓谷鐵道沿線地域・デザイン推進協議会収支予算（案）

資料 5 今後のスケジュール

1. 開 会

2. 会長あいさつ

【吉田会長（福島大学／前橋工科大学）】

- ・ 配布資料の中で縦長のものがあるが、これがわたらせ渓谷鐵道に関する基本方針であり、鉄道を活かした沿線地域の価値の最大化を目指すこととされている。これが今後議論を進めていく中での一つの目的であり、わ鐵をどう活かしてこの地域の価値を高めていくか皆さんと一緒に考えていきたい。
- ・ この会議は 14 時 10 分という中途半端な時間から始まると思われている方もいらっしゃると思うが、わ鐵の桐生駅到着の 13 時 48 分に合わせており、積極的にわ鐵を使い、支えていこうという思いがあつてのものである。
- ・ 事務局や委員が替わった際に、こういったことを引き継いでいくことも重要なので、述べさせていただいた。

3. 委員の紹介

4. 議 事

（１） 令和 6 年度協議会における取組状況の振り返り

<事務局より資料 2－1、2－2 に基づき説明>

《意見等》

【吉田会長（福島大学／前橋工科大学）】

- ・ クロスセクター効果分析というものがあるが、これはいわゆる分野別代替費用を算出したものであり、わ鐵の今の利用者を他の交通手段に置き換えるとしたら費用効率の面から見てどうなるのかということを試算している。
- ・ シナリオによって差があるが、マイナスの結果、つまり他の手段に代替できる可能性もあるという結果が得られたことは事実である。
- ・ ただし、観光客利用が多く、それに伴う経済波及効果もあるがそれらが反映されていない結果であるということは留意していただきたい。
- ・ 11 ページには、高校生アンケートの結果があるが、通学でわ鐵を使っている高校生はなくなると非常に困るという意見が見られたと、観光だけでなく沿線の皆さんの生活にもわ鐵が役割を果たしているということが確認できた。
- ・ 16 ページの地元企業アンケートでは、今後わ鐵と事業連携を行う可能性があるかという質問では、検討の余地が多いにあっていった企業が 11 社、可能性がある企業が 55 社ということで、66 社は沿線の地域経済との関係性を深めることができる可能性が確認できた。実際に水沼ヴィレッジの取り組みも行われており、あながち間違った結果ではないと思われる。
- ・ こういったことを総合的に考慮した結果、わ鐵を全線鉄道として維持するということになり、それと同時に先ほど布施社長からも話があったが、わ鐵もギリギリでやっているということもあり、①～⑤に示す課題を整理した。

（２） 令和 6 年度協議会会計監査報告

<事務局より資料 3 に基づき説明>

《意見等》特になし

(3) 令和7年度協議会事業計画(案)の変更について

(4) 令和7年度協議会予算(案)の変更について

＜事務局より資料4-1～4-3に基づき説明＞

《意見等》

■地域公共交通計画の策定が当初の予定より遅れることの影響について

【服部委員（群馬県桐生みどり振興局）】

- ・ 地域公共交通計画の策定が1年程度後ろ倒しになるという認識でよいのか。
→（事務局）資料5で説明するが、当初の予定では、本年度中に地域公共交通計画の原案を作成することになっていたが、約半年ほどスケジュールが後ろ倒しになる見込みである。
- ・ 地域公共交通計画の策定が遅れることによる影響はあるか。

【吉田会長（福島大学／前橋工科大学）】

- ・ 2日前の協議会でも話をしたが、前向き投資の話や三社共通でできる部分は何かといった話をするために、少し時間を多くいただきたいということである。一方で計画策定が遅れると、取り組みも後ろ倒しになる。2月の協議会ではマスコミが入るなど関心が高かったが、鉄道として存続することが決まると取り上げられる機会が少なくなってしまう。

■地域住民の意見集約方法について

【吉田会長（福島大学／前橋工科大学）】

- ・ 実際はわ鐵をどう活かしていくかということで、今後が大事なフェーズである。地域として住民とのコミュニケーションをどのように考えているか話を伺いたい。
→（青木委員・みどり市）地域公共交通計画を今策定しているところであり、その中で意識の共有を図っていきいたい。
→（古川委員・桐生市）桐生市では市長が行うまちづくり懇談会というものがあり、市民団体の意見の聞き取りを行っている。
→（小菅委員・日光市）日光市では、都市計画マスタープランと立地適正化計画の見直し作業を行っている。わ鐵の位置付けについて、足尾地域と密着した路線でもあり、意見を聞きながら見直しをしていきたい。
→（葭田委員代理・栃木県）栃木県では昨年、地域公共交通計画を作ったばかりであり、その際に広く意見をうかがっているところ、わ鐵に関してはその中でも特定の地域の話になるので、ピンポイントで意見を拾うということは難しい。

■マスタープランや計画における、わ鐵周辺地域の位置付けについて

【吉田会長（福島大学／前橋工科大学）】

- ・ 日光市に確認だが、都市計画マスタープランや立地適正化計画におけるわ鐵周辺地域の位置付けはどのようになっているのか。
→（日光市）足尾、栗山といった地域を地域拠点として位置付けている。

■法定協議会報（わ鐵通信）について

【佐羽委員（関東運輸局地域公共交通マイスター）】

- ・ わ鐵通信を配布していただいたが、年3回配布ということで、3市それぞれが担当して発行するようなイメージだと思われる。わ鐵沿線住民への意識醸成を図る唯一の情報発信手段だと思うが、各市バラバラにするのか、どのように考えているのか。
→（事務局）今後どのような紙面構成にするか、どう統一化を図っていくかは今後調整していく。
- ・ これはどのような形で配布することを想定しているのか。
→（桐生市）公民館に配布をして、そこで見てもらう形を取っていた。広報に入れることや回覧するということも考えたが実現できなかったため、今後そういったことも視野に入れて考えていきたい。
→（みどり市）7月4日に対話の機会があるので、そこで見てもらうのと、市のホームページにも掲出する。

【吉田会長（福島大学／前橋工科大学）】

- ・ 前回の協議会で群馬県のwebページにはこの協議会の情報が載っているが、栃木県の方には反映されていないという話があったが、すぐに対応してもらった。広報誌をホームページに載せるということとは重要だと思われる。
- ・ 時刻表を載せるということは出来ないか。裏面まで編集するのは大変だと思うが、時刻表であれば、手に取ってもらいやすく、その後も取っておいてもらえるかもしれない。

【岩波委員（桐生商工会議所）】

- ・ わ鐵通信をわ鐵の駅に置く予定はないのか。
→（事務局）調整させていただきたい。

【吉田会長（福島大学／前橋工科大学）】

- ・ 余談ではあるが、仙台市営バスは経営が厳しい状況であるが、そのような状況を利用者に知ってもらいたい、楽しく使ってもらいたいということで、こういった通信を各バス停に設置している。わ鐵に関しても相談させてもらいながら、前向きに取り組んでいけるとよい。

（５）今後のスケジュールについて

<事務局より資料5に基づき説明>

《意見等》

【吉田会長（福島大学／前橋工科大学）】

- ・ 裏面に協議会全体のイメージがあり、群馬県全体の地域公共交通活性化協議会に諮るとある。上電、

上信の場合は気づかなかったが、わ鐵は栃木県も関係する。私は栃木県の協議会会長も務めているため、どう連携するか考えさせていただきたい。

（６）その他

■沿線価値の向上と二次交通について

【佐瀬委員（ホットランドホールディングス）】

- ・ 4月18日に水沼の湯がオープンした。連日かなりの盛況ぶりを見せており、土日はたくさんのお客様がお見えになっている。平日は少し弱いかなという実態である。
- ・ 来場客の動向をみると、東京・埼玉エリアが60%、群馬県内が40%という形、隣接したサウナヴィレッジの方は20～30歳代の若い利用客が多く、水沼の湯は比較的年配の方も多く使っている。
- ・ 自動車利用の方が多いのが現状であり、わ鐵を使ってくるために考えていることが3点ある。
- ・ 一つ目は、東京からのお客様が来る際に、乗り継ぎが良くなく、長いときは相老駅で45～50分くらいの乗り継ぎとなっており、お客様からの意見も多い。
- ・ 二点目は、土日のお客様が集中するが、輸送力が足りていないと感じる。トロッコ列車も人気で乗り切れないくらいのお客様が来るが、やはりもう少し増便をしてもよいかと思う。
- ・ 三点目は、8月に古河グループの足尾銅山記念館が完成して、かなりのお客様が来ると思うが、やはり日光への接続が無いため、日光からどう誘導するかが最大の問題になるのではないかと思うので、ぜひそのあたりを検討していただければと思う。

【吉田会長（福島大学／前橋工科大学）】

- ・ 3点重要な示唆をいただいた。相老駅は都心方面から東武特急に乗ってきた方の乗り継ぎ駅というゲートウェイでもあるので、調整しなければならないところはありつつも、視野に入ってくると思われる。
- ・ バスでどう繋いでいくかということも日光市だけの課題ではなく、地域全体の課題として経営連絡分科会などで課題の共有をしていきたい。
- ・ そう考えると経営連絡分科会を水沼でやるということもよいと思う。やはり現地を見るとアイデアが色々と湧いてくると思う。

6. 閉会

以上